

『2018年度春学期 学生による授業評価報告書』刊行にあたって

学長 大塚伸夫

2018年度春学期末に実施した学生による授業アンケートの集計結果がまとまりましたので、ここに報告書として刊行いたします。この調査にご協力いただいた学生の皆さん、授業担当の教員の皆さん、事務職員の皆さん、そして各方面の方々のお陰で本報告書を刊行できることに感謝いたします。また近年、わが国の大学では、教育の質保証とそれを担保できる教育改革の必要性が叫ばれています。本学もそうした教育改革に資するデータの集積ができたことをうれしく思います。

大学教育をめぐる近年の課題として、上述したような教育の質保証の一環として、入試に関わる「入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー：AP）」、大学4年間にわたる「教育課程編成と実施の方針（カリキュラム・ポリシー：CP）」、そして卒業に関わる「卒業認定と学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー：DP）」、これらを「3つのポリシー（3P）」と略称していますが、教員の皆さまのご協力のもとにこの見直しがなされ、ホームページに公開されております。その際、教育による学修成果に「学力の3要素（1.知識・技能、2.思考力・判断力・表現力等の能力、3.主体性をもった協働力）」を盛り込むことが求められ、それらを考慮して3つのポリシーが見直された次第です。

さて、本年度の春学期末に実施された授業アンケートに関しては、アンケート導入当初の趣旨に従って、授業内容改善のための参考資料という従来の立場を踏襲して実施いたしましたが、そもそも学生による授業アンケートは、上述したように学生のDP達成のための組織的なFD活動の一環として位置づけられます。それゆえ、このアンケート自体は本学のPDCAサイクルのチェック部分にあたり、各授業ごとの具体的な効果や問題点を把握し、教員による教育改善に役立てていただくことを目的としています。

そこで、株式会社ディーシーアイ作成による『学生による授業評価アンケート結果分析報告』を踏まえて、授業改善に向けた3点の提案を行いたいと思います。まず、授業アンケート分析結果によれば、Q1～Q14の全体にわたって昨年度春のアンケート結果より数値が上昇して、喜ばしい結果になったと総括できます。しかしながら、個別の課題に目を移すと問題が無いわけではありません。そこで、①教員による授業の取り組みの視点（Q1～Q6）、②学生による取り組みの視点（Q7～Q9）、③授業に対する満足度（Q10～Q12）といった3点から、秋学期に向けた授業改善の取り組みについて提案したいと思います。

- ① 教員による授業の取り組みの視点（Q1～Q6）からは、改善が遅れた授業が多く含まれているQ4教員事前事後学習指示の課題です。Q14学生の平均学習時間の短さ（授業1回あたり約30分程度）を改善するためにも、秋学期はこのQ4教員事前事後学習指示の向上に努めてください。
- ② 学生による取り組みの視点（Q7～Q9）からは、Q8学生質問調査努力の数値が低く、改善を急務とする授業が少なくないとありますので、そのような状況にある授業の改善を急ぐ必要があります。
- ③ 授業に対する満足度（Q10～Q12）からは、他の質問項目に対し影響力の大きいQ11学生興味関心向上が重要となります。その学生の興味関心を誘引するのがQ10学生有用性、Q9学生目標達成、Q6教材教具効果、Q8学生質問調査努力、Q5教員質問相談対応の5項目となりますので、この5項目に対する向上努力を期待します。

以上の3点を秋学期の授業改善の求めにしたいと思います。ぜひ、学部・学科・コース・教員個々人がこの求めを良い刺激と受け止めていただき、今後とも上記の3点に留意されて授業改善に努めて頂きたいと思います。

以上